

東邦キャンパス

平成 24 年 (2012 年) 7 月 1 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P  愛知東邦大学
東邦高等学校

左後から→梶田 亜未、大鋸 蒼、角田 千尋、水本 千瑛、大田 華、吉村 美咲
左前から→薫田 侑季奈、坂本 裕美、石野 和馬、久保田 千春子、長江 彩華

高校ダンス部が「世界一」に

東邦高校のダンス部は3月下旬、米国で開かれた大会MISS DANCE DRILL TEAM USA INTERNATIONALに初参加し、HipHop部門で一位に輝きました。上の写真は、トロフィーを手に栄冠の喜びにひたるメンバーです。昨年7月の国内大会で優秀な成績を収めて臨んだ国際大会。女生徒が圧倒的に多いチームにあって、オリジナルの振り付けなどリード役を果たした石野和馬君=現・愛知東邦大学1年=は「選抜メンバーが決まったときはいろいろあったけれど、練習を積むうちにまとまるようになった。ダンスをしてきた良かった」と話しています。ちなみに石野君は米国でプロのダンサーにと、スカウトもされたそうです。(16ページ参照)

★大学、耐震化へ大改修

昨年大震災中止になった「名東区民まつり」が、5月13日、2年ぶりに学園を主会場に開かれました。河村たかし名古屋市長も訪れ、会場は大にぎわいでした。右の写真は大学図書館で愛知東邦大生が、子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、おりがみを教えている様子です。(15ページ参照)

大学では夏と来春に大規模な工事をします。校舎を大地震に耐えられるよう強化すると共に、太陽光を生かした創電や避難所になった場合の飲料水と電源の確保も図る工事です。(9ページ参照)



国際交流

オーストラリアで行われた4カ国姉妹校交流会

高校 国際交流室長 伊藤 保憲

2012年4月23日から5月4日の日程で行われた4カ国姉妹校交流会に、東邦高校からも5人の生徒が代表として派遣されました。4カ国姉妹校交流会とは、本校の姉妹校が2年に1度ホスト校を決めて行う交流会で、1997年に本校の発案によってはじめられたものです。今年度はオーストラリアの姉妹校、サレジアンカレッジがホスト校となり中国の南京から南京外国語学校、ニュージーランドのクライストチャーチからシャーリーボーイズハイスクール、そして東邦高校からそれぞれ代表生徒5人と教員2人が集結しました。

交流会が始まってすぐに行ったキャンプでは、たくさんのゲームやスポーツを通してお互いの仲を深めることができました。ニュージーランドとオーストラリアの生徒は母国語が同じですぐに友達になれます。英語を母語としない中国と日本の生徒は少し遅れがち。

しかし、時間が経つにつれ、またたくさんのアクティビティを共にしていく中で、言語の壁も次第に低くなって行きました。本校の生徒にとっては、英語の国際性と重要性を肌で感じる事ができた初めての瞬間でした。

サレジアンカレッジはオーストラリアのビクトリア州、サンベリーという町にあるカトリックの学校です。その広大な敷地にはチャペルはもちろん、サレジアンカレッジのスタートとなった Rupertswood Mansion、自然豊かでオリブ畑やブドウ畑、小さな湖まである素晴らしい環境です。

本校の生徒たちは、日本の文化として折り紙を紹介する機会がありました。4カ国の生徒が、協力して一つのものを作ろうということで挑戦したのは「くす玉」。折り紙と言うと「鶴」を連想しがちですが、見



本を見せて、「今からこれを作ります」と言った時にはその美しさにWow！という驚きの声。悪戦苦闘しながら出来上がった5つのくす玉は各校に1つずつ交流会の記念に持ち帰ってもらいました。



ここには紹介しきれない程のたくさんの交流がありました。この交流会はまさに感動に満たされ、生徒たちの心の中にいつまでも残る思い出となっただけでなく、世界の中の自分、世界の中で生き方を考えるきっかけになりました。4カ国の姉妹校の友情を確かめ合いつつ、次の姉妹校交流会で再会することを約束して無事閉幕。次回の姉妹校交流会は、2014年本校の90周年を記念して東邦を会場にして行います。

愛知東邦大学における国際交流



愛知東邦大学は、現在、アメリカのエベレット・コミュニティ・カレッジ、ニュージーランドのリンカーン大学、スウェーデンのイエテボリ大学、イギリスのミドルセックス大学、中国の雲南大学、以上5大学と姉妹校協定を結んで交流しています。

具体的には、2週間ほどの短期海外研修を毎年2回ほど企画して参加者を募り、5人以上集まった場合に、学生を送り出しています。2011年度は、スウェーデンとアメリカへの研修を企画しましたが、スウェーデン研修は希望者が少なく、残念ながら実施できませんでした。短期研修を企画し、実施に漕ぎ着けるためには、

大学 地域国際交流委員長 小野 隆生

金銭的負担の問題に加えて、学生の英語圏指向の強さに対する配慮、そして求められる語学能力の問題などがポイントとなります。これらを含めて、さらに学生が参加したくなる研修先を開拓する必要があるように思われます。

海外研修では、学生たちは全く異なった環境の中でかなり苦労します。これが学生たちに大きな良い変化を起すようです。研修後「世界観が広がった」「家族へ感謝したい」という言葉が多く聞かれます。

本学では海外からの学生受け入れ企画として、日本企業でのインターシップ活動を実施しています。2011年度も姉妹校のエベレット・コミュニティ・カレッジから4人の学生が来日しました。インターンシップ先の日本企業の反応はとても良く、アメリカの学生たちも手ごたえを感じたようでした。

高校の行事

1年生学級合宿

1年学年主任 濱砂 孝

4月25日(水)～27日(金)の間に、1泊2日の行程で前団(A～G組)・後団(H～O組)に分かれ、1・3団は岐阜県恵那峡、2・4団は三重県湯ノ山を宿泊地として学級合宿を実施しました。

校長講話を通じて東邦高校の歴史、設立の目的をより深く理解し、東邦教育の中で目指す自分の姿を自覚し努力する姿勢を学ぶことは、高校生活を有意義にするための大きな指針で、たいへん有意義であり、我々教員も再認識をしました。

学年としては、「人は誰でも10個のものを持っている、例え10の内9は自分と合わなくても、必ず良いものを人は1つ持っている。その1つを見ることができる人になって欲しい」とメッセージを生徒諸君に送っています。そのことを考えクラスメートは当然、他の生徒とも相互理解がしあえるだけでなく、他人の気持ちや個性を尊重できる人間になって欲しいと思います。それを実現できる有意義な場が学級合宿です。

残念なことに、26日は雨でしたがその中で協力し、周りを気遣いながら行動する生徒の姿は、正に前述の件を実現できた場面でした。成長の証を見せてくれました。

2年生遠足 雨のリトル・ワールドと明治村

2年学年主任 高倉 清文

2年生の遠足は、本来の目的は健脚です。最近ではデイキャンプが主となり、キャンプ場でバーベキューをし、周辺の散策をしています。今年は残念ながら雨



雨のリトル・ワールド

ということ
で、学年を
2グループ
に分けて出
掛けました。
この日のリ
トル・ワー
ルドは、幼



民族衣装に満足

稚園児から本校以外にも高校生も多数来場していました。雨で屋内のどこかに溜まるのではと心配しましたが、それは老婆心で、元気良く、沖縄をはじめとする世界の建物を見学し文化を堪能することができました。

明治村でも入り口の第四高等学校のある二丁目から一丁目の森鷗外邸そして五丁目の帝国ホテルまで明治の建物と歴史に触れ、有意義な1日となりました。

3年生遠足 新緑の中を散策

3年学年主任 中林 幹雄

3年生の遠足は4月26日(木)、A、B、C、D、F、Nが伊勢神宮～おかげ横丁、E、G、I、J、Lが三十三間堂～清水寺、H、K、Mが化野念仏寺～嵐山の3グループに分かれて、新緑の鮮やかな伊勢・京都へ行ってきました。伊勢は小雨に降られたものの、京都では降られずに済み、散策には最適で伊勢や古都の風情を楽しみました。伊勢神宮や古寺の内部の見学をし、グループに分かれて買い物や、新しいクラスの仲間との交流もできました。



京都 清水寺仁王門 前にて

平成23年度 高校卒業式 未来への夢に向かって



東邦高等学校の第63回卒業証書授与式が、3月1日(木)に本校体育館にて挙行されました。当日は天候も良く、穏やかで卒業式にふさわしい日和でした。

式典は、体育館に在校生・教職員・卒業生の父母約500人が待つ中、卒業生564人がA組を先頭に、その表情に緊張感を漂わせながら担任を先頭に整然と入場しました。式は、全員による校歌斉唱より始まり、厳かな雰囲気の中ですすみました。卒業証書の授与は、クラスの代表者がその責任感を表情に漂わせ、それを見守るクラスメイトは緊張の中に晴れやかな表情で自らの代表を見守っており、各々の高校生活での思い出を胸に新しい、生活に対しての期待が感じられました。

在校生代表の生徒会山村紗慧さんの心温まる送辞が、卒業生たちの高校での思いをさらに深くさせました。卒業生代表の勝川智香子さんの答辞は、入学時からの3年間に思いを馳せ、これからの自分たちの将来に向けて力強く進むことを宣言しました。そして退場時は、卒業生全員が父母席から在校生の前を通り、参列者から暖かい拍手を浴びて退場しました。



このように式典は厳粛な中に心温まる内容を含んで終了しました。

式後は、各教室で担任による饒の言葉を受けて、クラスメイトとともに名残を惜しみました。その後中庭において、恒例となっている部活動の生徒や在校生による卒業生の追い出しが華やかに行われ、後輩などに見送られ、3年間の思いを噛みしめながら校門を離れていきました。

平成24年度 高校入学式 新たな一步を緊張とともに



平成24年度の東邦高等学校入学式は4月6日(金)に新入生585人を迎えて、本校の体育館で行われました。前日までは悪天候でしたが、当日は春の日差しがまぶしいほどで、今を盛りと桜の花の満開の中、新しい制服に身を包んだ新入生が、誇らしげな表情で校門をくぐりました。

吹奏楽部が後輩の入学を祝って奏でる中、式典が始まりました。入学生は父母と隣りあわせて着席し、互いの表情はまさにその日の天候のように晴々としていました。長沼校長は、「私学は学校によって人材育成に特有の目的を持っている」こと、本校は創立者の下出民義先生が掲げた「真に信頼されて事を任せられる人、社会に役立つ真面目な実業人を育てよう」という理念を掲げて「真面目」が校訓であることとその目的にたつ本校の歴史に触れ、私立学校である本校の存在意義を分かりやすく、その式辞の中で語られました。

これに対して新入生代表の成本政仁君(日進西中学出身)が「誓いの言葉」を述べ、新入生一同、心を新たにしていました。

式後、各教室で新担任からクラス方針や高校生活の心構えなどについて話があり、新たな夢と希望をもつことができました。その後玄関付近で、生徒会主催の新入生歓迎のイベントがなされ、父母ともども本校に入学したことを実感する時を持つことができました。

卒業記念品：壁掛式電波時計2台

(交流の広場および感動の広場に1台ずつ寄贈されました)

大学の行事

人間学部子ども発達学科

1・2年生合同オリエンテーション・施設見学

人間学部教授 矢内 淑子

人間学部子ども発達学科では、4月2日(月)、1・2年生合同オリエンテーション・施設見学を、愛・地球博記念公園内の地球市民交流センターと愛知県児童総合センターで行いました。台風並みの大荒れの天気予報の中、帰りには雨と大風に見舞われましたが、計画通り開催することができました。



施設見学後、グループで話し合った内容を1年生が発表

今年は1年生の履修オリエンテーションを前日に実施することで、地球市民交流センターで行う交流会を例年より30分多い1時間30分で行いました。2年生の実行委員10人は内容を充実したものにするため、全員で事前準備に励みました。その甲斐あって、1・2年生縦割り7グループで、自己紹介や折り紙、全員によるゲームやダンスなど、学生・教員間で笑いの絶えない、楽しい親睦の時間を過ごすことができました。

児童総合センターでは、「あそび発見!ウソ?ホント?」と題してみんなであそぶプログラムが館内いっぱいに広がっていました。子ども自身が工夫しながら遊びを作り出せる遊具や危険に配慮された遊具で、子どもが想像以上に元気に全身で遊んでいる姿に接し、多くを学ぶことができた有意義なオリエンテーション・施設見学となりました。

頑張っています! 教職課程履修学生 今年の卒業生10人が学校教員に

教務課 新村 健

中学校・高等学校の教員を目指す『教職課程』が愛

知東邦大学に設置されて、3回目の免許取得者が今春卒業しました。今春は、29人の学生が保健体育の教員免許を取得しました。これで免許取得者は保健体育61人、商業3人、合計64人となりました。今年の卒業生29人のうち、現在10人が学校現場で教員として働いています。教員になった人数は、一昨年の1人、昨年の7人から着実に増加しています。この他にも6人の卒業生が今年の採用試験受験に向けて頑張っています。

経営・人間の両学部では、教員を目指す学生に対する支援を強化する取り組みとして、今年度から学習室を設置しました。教員採用試験の情報を室内に掲示するなどの情報提供も行っています。今後、自主学習の場としても活用されることでしょう。

また、「教員として働いている先輩方と語り合う会」も計画されています。このような機会を通じて、在学生の勉学意欲の向上を図るとともに、本学出身教員のネットワークが広がることも期待しています。

学内企業展開催

就職委員会

2月16日(木)・17日(金)に経営学部と人間学部の3年生を対象とする学内企業展を開催しました。2日間で36社の企業ブースを設け、延べ90人の学生が参加しました。企業展に参加するにあたり、事前にグループワークや企業研究の研修を受講して臨んだ学生たちは1人約6社を訪問し、人事担当者の話を熱心に聞くなど意欲的に取り組む姿が見られ、非常に熱気に包まれたイベントとなりました。

なお今後4年生を対象とする学内企業展を7月10日(火)~13日(金)に実施します。



おかえりなさい！

—第2回「ホームカミングデイ」を開催 子ども発達学科

子ども発達学科長 矢藤 誠慈郎

5月20日(日)、第2回子ども発達学科「ホームカミングデイ」を開催し、1・2期生と関係教職員が本学に集いました(退職された佐多先生も駆け付けてくださいました！)。



ホームカミングデイは、近況報告を交わして歓談することで、卒業生がこれからも頑張るエネルギーを補給してくれればと考えて催しているものです。去年は8月に実施しましたが、今年は、就職して最初の悩みがピークにあるかもしれない5月に開きました。

本学の卒業生はまだ若い人たちばかりです。先輩のいない道を自分たちで懸命に切り開きながら苦闘し、活躍していることを改めて実感しました。そんな一人一人の報告を聞きながら、胸が熱くなる思いで、こちらの方が励まされました。

なお、この会は邦友会の多大な援助を得て実施することができました。記して御礼申し上げます。

学生がプレゼンコンテストで最優秀賞獲得！

2012年1月に行われた日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会主催「学生プレゼンテーションコンテスト」に経営学部地域ビジネス学科の学生がチャレンジしました。



清水詩乃さん・中島明 中島さん 清水さん
日香さんのペアが最優秀賞を、鬼頭舞さん・高柳有佑君のペアは奨励賞を受賞しました。

清水・中島ペアは実習(実習先：NPO法人かんでらmonzen亭/名古屋笠寺まちづくりの会)で学んだことについて、ナチュラルかつ自信にあふれたプレゼンテーションを行い、最も説得力があったと高い評価を得ました。

平成23年度卒業証書授与式



平成23年度愛知東邦大学卒業証書授与式が3月14日(水)に、大学スチューデントホールアリーナにて行われ、経営学部122人、人間学部107人が卒業しました。式典は愛知東邦大学吹奏楽団の厳かな演奏に始まり、卒業生代表に卒業証書が授与されました。その後、学生表彰が行われ、学業や正課外活動において優秀な功績を取めた学生に表彰状が送られました。

平成24年度入学式



4月1日(日)、大学スチューデントホールアリーナにて入学式が挙行されました。

本年度の新入生303人が、これからはじまる大学生活に期待を膨らませて祝辞に耳を傾けていました。

クロリティー選手権大会で学生が大活躍

6月3日(日)住友ゴム工業(株)体育館にて、第23回愛知県クロリティー選手権大会が開催され、学校の部で昨年に続き本学学生が大活躍しました。

優勝したのは、人間学部人間健康学科の武直輝さん(4年)です。そして、県協会及び愛知教育委員会から表彰されました。また、経営学部の伊藤祐哉さん(3年)が2位、同学部の有竹健児さん(3年)が3位に入賞し大健闘しました。



愛知東邦大学 就業力育成支援

学修支援センター長 中山 孝男

昨年度から本格的に実施を開始した就業力育成は、本学の教育にとって中心的な位置づけになりつつあります。本年度も就業力育成教育プログラムの中核部分は継続して実施し、学修支援センターは、その支援を行っていきます。

具体的に言いますと、昨年度導入した学生ポートフォリオシステムによる受講記録、目標管理、出来事ブログなどをより積極的に活用させ、学習効果がより高まるようさまざまな機会を利用し、就業力をつけるように支援していきたいと考えています。

また、昨年度新たにスタートした就業力マイスター

奨学生制度は、この4月に第1期生として24人を認定しました。彼らのいろいろな面での活躍をとおして、他の学生により波及効果が生まれることを期待しているところです。今年度は、対象学年が1年と2年の2学年に広がり、すでに奨学生候補のエントリーが済んでおります。今後の目標設定とその達成を支援していきたいと思います。

学修支援センターはこうした業務だけでなく、学習相談や学生生活支援などの総合窓口ともなっており、本学における就業力育成教育に最大限協力することを主たる目的の一つとして活動しています。

2011年度 就業力マイスター奨学生の声



経営学部地域ビジネス学科2年

大橋 実

私がマイスターに応募した理由は、ただ単純に奨学金がもらえるかもしれないとの思いからでした。

最初やり始める前はお金のことしか考えておらず、私がマイスターをやっても、私自身なにも変わらないと思っていました。ところが、実際にマイスターに応募し自ら具体的な目標を設定してみると、不思議と自然に目標を意識して努力している私がありました。

マイスターは確かにお金が絡んでいますが、その本当の目的は、自ら設定した目標を常に意識づけて目標により近づけるように努力することだと思いました。色々な目標は私を成長させてくれました。

たとえば、私が挙げた目標の一つ「積極的に地域活動に参加する」では、今まで交流のなかった近所の人々と除草などの清掃活動を通じて知り合うことができ、今では顔を合わせれば必ず挨拶をするようになりました。また、住んでいるマンションで行われる夜店祭りの手伝いもしました。普段は見れない運営の部分を見れたりして、新鮮で面白かったです。

今では、もうマイスターなどに関係なく自主的にいろんな活動に参加するようになりました。そして、「自主的に動く」そのきっかけを作ってくれたのは間違いなくマイスターでした。



人間学部子ども発達学科2年

田中 翔太

マイスター奨学生制度は学生のやる気を引き出します。自分の目標をポートフォリオシステムで入力・確認できるので、目標に向けて頑張ろうという気持ちになります。

私は2011年度は大学図書館が行っている「ブックランナー2011」にチャレンジして、絵本を100冊読みました。子どもたちの集まるクリスマス会では紙芝居を行いました。また、東日本大震災のボランティアに参加し、被災地の仮設住宅でくらす方々の気持ちに寄り添う活動をしました。こういった取り組みが評価されたのだと思います。

2012年度も「ブックランナー2012」に参加し、ブックランナーの最速記録を更新しています。これからもいろんなことにチャレンジしていきたいと思います。

就業力マイスター奨学生制度とは

勉学及び課外活動に積極的に参加して、実績を重ねることで高いレベルの就業力を総合的に身に付けた者が対象となり、学業成績・課外活動の両面から評価する制度です。審査に通った学生は「就業力マイスター奨学生」として表彰されます。



巨大地震に備え、 省エネに貢献、快適な学びの場に ——大学が大規模改修

愛知東邦大学は今年夏と来年春に大がかりな改修工事をします。向こう10年間に及ぶ大改築の第一期で、名付けて「スマート・キャンパス化」。ポイントは三つです。巨大地震に備えること、省エネ・節電に貢献すること、快適で地域に開かれた大学へと装いを新たにします。

B棟と扇形教室棟は大学の前身・東邦学園短期大学の開学(1965年)に合わせて建ちました。建設から47年余、老朽化し汚れも目立ちます。緊急性があったのは耐震化でした。2009年度に実施した耐震診断では、建設当時の基準に適合していても、いま激しい揺れに襲われた場合、人的被害も生じかねないとの診断でした。学園は学生と教職員を命の危険から守るため、耐震補強を急ぐべきだと判断、2010年度から全体構想を立案し、第一期の改修実施にこぎつきました。

柱など主要構造物を補強し、天井からの落下物をできる限り防げるような耐震改修工事をします。学生や近隣住民が避難所として使用する事態にも対応できる施設を整えます。体育館の天井などを改修、停電時は自前の電力を数日間送れる非常用発電設備を設けます。飲み水も供給するため、井戸の配管などを改修・整備します。高校と大学との間に避難通路も設けます。

原発事故で一気に高まった節電・省エネの要請にも積極的に応えます。体育館屋上などに太陽光発電パネルを設けて80KW程度を創電、照明のLED化、建物の断熱化、空調機器の更新などで、外部からの電力供給を推定40%削減します。

講義室は間伐材を使った木質系の壁面に改め、やわらかで落ち着いて学べる部屋にします。トイレは清潔でオシャレな感覚も漂う空間に変えます。学内の環境向上です。

改修は大半を今年8、9月、残りを来年2、3月に行いますが、来春の工事では校舎東側の芝生部分を公共空間の場に改め(上図が完成予想)、地域とのつながりを形で示すこととします。同時に通路のバリアフリー化も図ります。

整備は、就業力の育成と地域連携を意識した大学の教育づくりを念頭に、「安心・安全で自然環境に配慮したキャンパス」という基本理念に立っています。学園創立100周年までの約10年間、三期に分けて改修・改築を進める方針です。計画では、2014年度に本部・図書館棟を建て替え、10年先を目処に、講義棟を全面改築します。学生が有意義な生活を送れる地域のシンボリックな場所になることを目指しています。

別 辞



いつか来る日に 思うこと

山本 正彦(元大学教授)

東邦学園に赴任したのは昭和52年。それから短大30年、大学5年、振り返れば35年の歳月があったという間に過ぎ去ってしまいました。私のような者がかかる長い年月この東邦にいられたのも、たくさんの教職員の皆様に励まされ、指導され、協力していただいたことがあったればこそと、ただただ感謝するばかりです。

思い起こせば、赴任3年目の学生課長をかわきりに、いろいろな学務やプロジェクトに係わり、日々仕事に追まわられていた33年間であったように思います。私自身本当のところを言えば、こうした学務運営などに向いた人間だとは思っておりません。学長や先輩にお尻を叩かれ、一生懸命仕事をこなしていたのが本当のところでした。

学生と一緒に遊んで遊び学び、その傍ら自分の趣味に明け暮れる、ただの怠け者といったところが本当の姿です。これからは、庭いじり、畑仕事、読書、旅行、ゴルフなど、徒然なるままの毎日。死ぬまで暇潰し、不謹慎な余生を味わおうと思っています。

退職にあたり、「東邦学園」という趣味を創ろうと思います。学園がますますの発展をすることを祈念するとともに、楽しい・苦しい学園での生活、ありがとうございました。



ありがとうございました

佐多 透(元大学教授)

人間学部の開設とともに着任し、多くの方のご支援によって何とか5年間の責務を終えて退職いたしました。

今、21歳で専門学校の教壇に立って以来、約50年間の教師生活の最後を、愛知東邦大学で無事終えられたことへの喜びと深い感謝の念に浸っているところです。

愛知東邦大学では「幼児の造形・同指導法」などの教科を担当しましたが、私にとっては前任大学での専門教科にはない「基礎演習」や「総合演習」の教材作りのたいへんさが思い出として残っています。私がこの大学で学んだことを、授業の中で学生たちとやった言葉遊びの「アクロステック」で表現しますと、

愛する心と
知性を磨くところ
東海の地にありて
邦友たちと励み
大いなる知恵を
学びました

今後は遠い川崎の地にあつて、学園のご発展と皆様のご健勝を祈っています。



「東邦人」として

加藤 元雄(元高校教諭)

35年間の「任務」を終え、とりあえず「定年退職」となりました。長い間背負っていたものから、やっと解放されたような気分です。しかし、それも東の間、2012年度も「再任用」として、引き続き勤務します。

人生の半分以上を「東邦」で過ごし、いつの間にか志向や行動のパターンが、校歌に示されたような、東邦らしいものになっているように思います。先輩諸氏が歩んで来られたように、私も「東邦人」の一員になれたかも知れません。

現在も月の3分の1くらいは山梨県民として生活しており、この原稿も山梨の家で書いています。今後、その割合が年々増加していくことになっています。



退職の挨拶

尾崎 健二(元高校教諭)

「誰も云わないから、朋として敢て云っとくぞ。下段から、ことを為していると思いきや、何らかの事情でことが煮詰まると、大上段を装い、周りを啞然とさせてはいまいか。思い上がりとはまた違う、あなたの世界観で、そこが佳さでもあるのだが…。」

はっとさせられるに決まっています。在京老師への顛末報告の第二声が、私の性質や流儀、作法の陰裏を抉る。第一声は、「辞め方は、大丈夫か。そこが一番氣懸りだ。相手方に面倒をおかけしていないのか。次の仕事先なんかはどうでもよいのだが…。」。対面して早々に、両頬をばしっばしと叩かれたわけです。

実の処、村田悟老師からも、「個性的に生きるとなると、それで善いんだけど、どんな相手でも受け留め

ることもしてみてください。歳と共に…。これを覚えておいてください。」と。肺腑に沁みる、在り難さ。



美術科第一期より 今日まで

竹田 正美(元高校教諭)

東邦美術科創設一期より19年が過ぎ、その時生まれた人たちが平成23年度の今年高校を卒業しました。何もない状態から始まり、今や卒業生たちも美術・デザイン界で大活躍し、いよいよ美術科も完成体となりました。

私は、大学卒業後14年間公立学校で美術教諭をし、そして1993年(平成5年)美術科第一期より東邦高校にて19年間勤めてまいりました。

美術科での指導では、特に美術・造形芸術は創ることだけでなく、個人がいかにか生き生き、伸び伸びと生きるかの証としての制作活動であり、〈生きざま〉が最も大事なことであると、常に声を大にして言い続けてきました。しかし、近年美術科生徒の成長と共に高度な美術教育に必死になっていくうち、指導と自分の言動・行動・活動に矛盾が生じることに悩み、今年度をもって教師生活に終止符を打ち、芸術活動に専念する決意をしました。

東邦での一つひとつの出来事が生涯の財産です。これから、場は離れますが東邦の一員であったことに誇りを持ち、それは生活のあらゆる場における私の原動力になることでしょう。

本当に皆様にはいろいろお世話になり誠にありがとうございました。最後に、皆様の健康と東邦学園のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。

新入職員紹介

一言アンケート

- ①本学園就職の動機について
- ②趣味または私的に打ち込んでおられること
- ③今後の抱負について



伊藤 恵美子(いとう えみこ)
所 属：大学
経営学部地域ビジネス学科
出身地：名古屋市

- ①前任校では主に留学生教育に携わり、コースデザインから入試制度・チューター制度の改革、特待生制度の創設、習熟度別クラスの実施等により、改革前に比べて2012年度入試では志願者が3倍以上に増加しました。この実績を踏まえて、伝統ある本学園の教育に貢献したいと思います。
- ②院生時代から「趣味=研究」の生活を続けてきました。新生活をスタートするにあたり、(仕事以外の)趣味を見つけたいですね。
- ③演習科目の担当が多いので、個々の学生さんと親しく話す機会を大切にしていきたいと考えています。



高間 佐知子(たかま さちこ)
所 属：大学
経営学部地域ビジネス学科
出身地：名古屋市

- ①今までは地元を離れて北海道や新潟で仕事をしていたのですが、地元の名古屋で自分の力を発揮できればと思い就職しました。
- ②水泳が好きです。高校生まで競泳選手をしていて毎日バリバリ泳いでいました。今は社会人スイマーとして楽しみながら大会に出ています。
- ③法学教育を通して、みなさんが社会で生きていく上で必要となってくる物の見方や考え方を身につけてもらえるように、がんばっていききたいと思います。



寺島 雅隆(てらしま まさたか)
所属：大学
経営学部地域ビジネス学科
出身地：名古屋市

- ①地域連携し、地域に貢献する学生を育成することが目的で赴任いたしました。ビジネスで通用する知識・

スキルやコミュニケーション能力を培い、信頼にた
る人格を育成したいと思います。

- ②中国語の習得、フィンランドの教育手法、スマホの活用に興味があります。
- ③一方的講義だけではなく、チームによる実践的な取り組みを推進していきたいと思います。4年間を通して、愛知東邦大学に来て良かったと感じてもらえるような、一人一人が充実した学生生活をサポートしたいです。夢は学生と一緒に、会社を立ち上げたり、店舗を経営することです。



尚 爾華(しょう じか)
所 属：大学
人間学部人間健康学科
出身地：中国ハルビン市

- ①創立してもうすぐ満90年という長い歴史を持つ東邦学園に、学生の就業力の育成などに力を入れ、最先端の教育システムを導入するところに魅力を感じましたので、10年間以上住んでいた北海道から参りました。
- ②自分流インテリアコーディネートが大好きで、住んでいる部屋や仕事の空間の模様替えをよくします。考案する時間も含めてとても楽しいです。
- ③学生のモチベーションを維持し、効果的な指導を心がけ、教育及び研究活動に専念することを強く思います。今までの経験を生かし、そして常に新しいことを積極的に吸収し、意欲的に取り組みたいと思います。よろしくお願いたします。



正岡 元(まさおか はじめ)
所 属：大学
人間学部人間健康学科
出身地：愛知県

- ①科学は人に優しく、人を幸せにしなければなりません。そのために、情報科学を専門としていない学生にこそ、コンピュータや情報通信技術の面白さを伝えていきたいと思っています。
- ②研究の中で、コンピュータネットワークの新しいしくみを考えている時間が一番楽しいです。
- ③コンピュータが面倒なもの、退屈なもの、難しいものだと思われぬように、コンピュータやコンピュータネットワークの面白さを伝えていきたいです。



藤重 育子(ふじしげ いくこ)
 所 属：大学
 人間学部子ども発達学科
 出身地：兵庫県神戸市

- ①学生の皆さんが目標に近づけるよう、そして何よりも「愛知東邦大学」で学生生活を送ることができて良かったと思えるように、サポートする一員になりたいと思いました。学園の魅力である学生・教職員が身近に感じられる距離感から、共に成長してゆけるようにも感じました。
- ②旅行・買い物・食事など外出したり、友人と話したりと、人と時間を共有することが大好きです。何気ない話からでも皆さんとの距離が縮まるきっかけになればと思います。
- ③観察が好きですので、アンテナを立てて情報をキャッチし、はやく愛知東邦大学や名古屋での生活に慣れたいと思います。



新實 広記(にいみ ひろき)
 所 属：大学
 人間学部子ども発達学科
 出身地：愛知県

- ①子どもたちの成長過程において、造形活動はさまざまな体験や発見をもたらしてくれます。保育者を目指す愛知東邦大学の皆さんと、造形分野の研究を通し、これからのより良い保育について考えていきたいと思ったためです。
- ②ガラス工芸です。1300℃で溶けたガラスを、吹き竿で吹いて器にしたり、型に流し込んでガラス彫刻を制作したりしています。
- ③学生の皆さんの研究活動を情熱を持ってサポートしていきたいです。よろしくお願いいたします。



松瀬 光(まつせ ひかる)
 所 属：高校 数学科
 出身地：愛知県

- ①学校として部活動と勉強の両方に全力で取り組んでいる姿をみて、ぜひ教員として関わりを持ちたいと思いました。
- ②折り紙を趣味としています。休日には1m×1mの正方形を用いて複雑な作品に挑戦することもあります。また、前任校で文化祭の軽音楽部門担当をして

いた関係から、広く浅く楽器の練習を始めました。

- ③まず第一にいち早く東邦高校の空気になじむこと。その上で、自分らしさを生かしながら生徒とともに学びあえるよう、努力していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



畑中 千佳(はたなか ちか)
 所 属：高校 国語科
 出身地：愛知県知多市

- ①生徒のニーズに合った学科・コース、盛んな部活動が東邦高校の魅力だと感じています。一人一人の個性を大切に、伸ばしていくことのできる教育に携わっていききたいと思志望しました。
- ②スポーツ観戦が好きで、特に野球観戦が好きです。今後は自分自身も体を動かして楽しめるようになれたらと思っています。
- ③生徒たちが将来に希望を持った社会に羽ばたいていけるよう、私自身もさらに成長して、支えていくことのできる教員になっていきたいです。よろしくお願いいたします。



東村 俊治(ひがしむら しゅんじ)
 所 属：高校 理科
 出身地：愛知県豊橋市

- ①東邦高校の生徒は素直で真面目な子がたくさんいるということを知り、そのような環境で自分の力を生かすことができるという思いで就職しました。
- ②今は活動していませんが、一時期ア・カベラグループを組んでバンド活動を行い、今池や覚王山のライブハウスで歌っていました。今でもカラオケは得意なほうです。
- ③学習や分掌・部活動など、自分がやるべき仕事ばかりでなく、自分のスキルの裾野を広げるべくさまざまな活動に参加していく所存です。また、初心を忘れずに、常に謙虚さと丁寧さをもって日々努めていきたいと思っています。

キャンパス短信

法人

「21TOHO教育充実事業募金」

～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

法人

講演会「みんなの命輝くために」開催

大谷 昭宏 氏=フリージャーナリスト=を招く

大谷昭宏氏の講演「みんなの命輝くために — 東日本大震災から1年3ヶ月・日本 —」が6月22日(金)



名古屋観光ホテルにて開催されました。(学校法人東邦学園、フレンズ・TOHO共催)

大谷氏は、社会部記者として長年、政治や事件にかかわってこれ、現場に足を運ぶ社会派ジャーナリストでもあります。東日本大震災と阪神淡路大震災の両方取材された経験から「活かされた教訓」「活かされなかった教訓」があることが指摘されました。

3・11の大震災にともなう大津波、多くの方の人命

を奪い、そして原発事故は故郷をも人々から奪いました。帰りたくても帰れない人、故郷を捨てざるを得なかった人、震災を契機に人の絆が改めて確認されましたが、新たな差別も作り出されたことを指摘されました。

ジャーナリストとしてメディアの役割にも話が及び、「メディアがしっかりしないと社会が間違った方向にいきかねない」とも。原発の安全神話を作り上げる上でメディアの果たした役割は大きいことは言うまでもありませんが、教育機関に籍を置く者としてもその責任の一端を感じざるを得ませんでした。「思いやりの心、寄り添う心」の大切さを実感させられました。

法人

災害用備蓄

広報・危機管理会議

理事長から「東日本大震災に対する学園の取り組み」提案が出され、理事会の下に置かれた当会議では、高校・大学それぞれの防災対策の取り組みの現状を確認し、その上で想定震度レベルの違いを意識しつつ、次の8つの課題を当会議の共通認識としました。

- (1) 学園全体の防災規程の制定
- (2) 緊急時の水・食糧・毛布など備蓄品目の洗い出しと備蓄計画の立案・実施
- (3) 備蓄倉庫の場所の確定とその周知
- (4) 緊急時の避難経路、緊急連絡網、震災時の緊急体制の確立
- (5) 各教育単体での教職員防災マニュアルの整備・見直し
- (6) 教育単体ごとの災害予防・訓練
- (7) 名東地域の防災活動との連携
- (8) 大学校舎の耐震補強計画の立案・実施。

そのうち、2番目の備蓄計画については、備品の洗い出しにより「備蓄リスト一覧」を作り、リストに照らし備蓄品の整備計画の策定に取り組みました。特に、緊急を要する飲料水、食糧、毛布・布タオル・防塵マスクについては5年計画で備蓄することにしました。



法人

学園ベストの作製



高大連携会議
学園の帰属意識を高め、学園PRに繋げるため、学園ベストを作製しました。

高校と大学が一体となり、ボランティアや地域活動する際に着用します。

本学園のスクールカラーであるグリーンを基調として、夜間時の活動にも対応できるように反射テープのラインを縫込みました。

法人

2011年度 高大教職員合同研修会

高大連携会議

高大連携の新しい取り組みとして、2012年3月5日に、高校と大学の教職員が合同で「高大連携のあり方を探る」のテーマで研修を行いました。

第1部では、国立大学法人京都工芸繊維大学アドミッションセンターの山本以和子准教授に「高大接続の新しいモデルを目指して 一育成型教育に着眼した高大トランジション」の講演をいただき、これからの高大連携教育について学びました。高大連携教育の究極目的は、教材の中で「だから高校の教科学習が必要なんだ」と実感させ、大学に入学して「この分野の勉強を真剣に取り組みたい」と希望を持たせることであると、大学入学までに(高大連携や入学前教育で)身につけたい教育活動について語られました。

第2部では、2月15日に実施した高大連携授業についてのアンケート報告を基に意見交換会を行い、次年度に向けての課題を整理しました。その後、大学A棟

カフェテリアで交流会を行い、教職員の親睦を図ることができました。



大学・高校

名東の日「区民まつり」開催

5月13日(日)愛知東邦大学と東邦高等学校を会場に、『平和の丘春まつり』が開催されました。

高校会場メインステージでは吹奏楽部の演奏に始まり、東邦高校のダンス部や矢野きよ実さんによるトークショーが行われました。その他にも、模擬店や茶華道部による茶会、高校グラウンドでのソフトボール部による実技指導・練習など、にぎわいをみせていました。



大学会場では、研究所の「驚きの戦中雑誌展」、朗読発表会、足湯などに地域の方々が参加してくださいました。

晴天にも恵まれ、大勢の方に東邦学園を知っていただくよい機会となりました。



クラブ活動 高校

ダンス部

世界大会MINI／SMALL HipHop (Co-Ed)部門1位に感激の涙

ダンス部顧問 伊藤 恵子

3月21日～27日、MISS DANCE DRILL TEAM USA INTERNATIONALに初参加しました。USAのIRVINE HYATT REGENCY HOTEL／BREN EVENTS CENTER(U.C.I)において、行われた45th ANNUAL PAGEANTのMINI／SMALL HipHop(Co-Ed)部門で1stPlaceをいただくことができました。

『“みんなの夢”実現に向かって心一つにパワー全開！～日本からUSAに発信、思いを一つに目指すは世界一！～』を合い言葉に、日本に残っているメンバーの希望を一緒に心に持って、USAのメンバーは、恵まれたスタッフと環境の中で、集中を切らすことなく、クールにかつパワフルに踊り、たくさんの声援と拍手をいただきました。踊り終えたメンバーのあの笑顔を忘れることはできません。感激して皆、涙を流していました。



また日本選手団12校同士との交流はもちろんのこと、SANPEDRO HIGH SCHOOLでの交流会やアメリカンスポーツセンターで本場のダンスクリニック、デイズニーランドでのダンスクリニックを受ける機会もあり、部員、顧問共にとてもいい勉強をさせていただきました。いろいろところで、支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これからは、8月ダンススタジアム、オールジャパンダンスフェスティバルin神戸、ダンスコンペティションと大会が続きます。支えていただいている周囲の方々の気持ちに応えられるよう、観ている方の心に響く作品を部員と共に創り上げていきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願いたします。

硬式野球部

らしい采配

硬式野球部コーチ 志水 和史



新チーム結成以来、一丸となって「東海の頂点」を目指してきましたが、昨年の秋季東海大会の結果は大変悔しいものでした。この事実を部員たちはなかなか受け入れることができませんでした。しかし、「前に向かって行くしかない」そんな心の叫びがどこからか部員の中から聞こえてきた時、部員たちの取り組む姿勢に変化がみられました。「今のままではいけない」と自ら進んで練習に励み、またミーティングを繰り返した毎日。その結果、手にした2年ぶりの春季県大会優勝。部員たちは大いに喜びました。しかしすぐに気持ちを切り替えました。彼らの本当の戦いは「夏」だからです。これは、絶対に負けれない最後の大会だからです。

そんな厳しい戦いを前にして、春季県大会、東海大会、ともに主力選手の怪我で選手変更を余儀なくされました。通常であれば、主力選手の中での変更となるでしょう。しかし、「チーム一丸」を掲げる森田監督は、あえて控え選手組の3年生を選手登録しました。その効果は絶大で、3年生はもとより、チーム全体の雰囲気が大変良くなりました。さすが百戦錬磨の監督らしい「采配」だったと思えてなりません。この勢い、この思いを必ずや部員たちは、「甲子園出場・全国制覇」という形に変えてくれると信じています。これから、暑い夏に向かって皆様のご期待にこたえられるように、全力で頑張っていきますので、応援のほど、よろしくお願いたします。

空手道部

自信と信頼

空手道部部长 村田 悟

「気持ち半分以上」あるOBはこうアドバイスをくれる。テクニック・体力それを超えるものが「気持ち」だ。

5月22日(火)今年の県総体のインターハイ予選大会決勝戦は、今年も総毛たつ思いを沸き立たせるものであった。6年ぶりに組手部門、男女・個人・団体で優勝、新潟全国総体出場の大勲章。

直前になって次々と怪我に苦しむ選手たち。3月の岡山全国選抜大会もそうであったが、手・足に負傷。靭帯に、骨に…。男子も女子も、しかも5月に入ってから…。なんという巡り合わせかとも思った。

しかし「思い」は重なった、お父さんお母さんの、OBらの。選手らを支えてくれる多くの人たちの「思い」が選手に憑依したのだ。奇しくも部旗は少々の手違いで『信頼と自信』の旧タイプのものが会場正面にデカデカと掲げられていた。甲斐田監督現役時代からの深緑色の雄々しいもの。

舞台は整えられた。そんな気がしたのは私だけではなかったと思う。「勝負ではない。自分への信頼。仲間・他者への感謝」。創部者、故小林知生先生の祈りの言葉である。

サッカー部

全国大会に向けて

サッカー部顧問 澤田 洋平

日頃から、サッカー部のご支援、ご協力に感謝致します。昨年度は皆様の応援をいただき、夏の全国高校総体の出場を果たすことができました。

現在東邦高校サッカー部は90人の部員を抱えています。サッカーのプレーももちろんですが、大規模な部活だからこそ学校生活などで自分勝手な行動は許されません。学校生活では、一人一人がクラスなどでの規律を守り、学業も怠らず必死に取り組みます。また、部活動では全国大会出場という目標を持ち、激しいレギュラー争いをする文武両道な“さわやか”東邦生になるようなチームを目指したいと思います。

チーム一丸となり、日々の練習に励み、3年連続の高校総体出場を目指し、さらに念願の全国高校サッカー選手権に出場を目標にしています。ご声援よろしくお願いたします。



2011年夏の全国高校総体

ソフトテニス部

新たな躍進の風

ソフトテニス部顧問 若山 大樹

ソフトテニス部に新たな風が吹いている。毎年、レ



ギュラーメンバーには高校から競技を始めたいわゆる初心者と呼ばれる生徒が必ず一定数存在し、その中から何人がレギュラーに入り、県大会へ出場をしているクラブでした。しかしながら、今年度はここ最近の新入部員の中では、考えられないほど能力の高い生徒が複数集まりました。その結果、春の総体予選団体戦でレギュラーのうち3人を新入生が占め、そうした新入生の活躍もあり地区大会での準優勝を勝ち取りました。県大会では、準々決勝で第一シード相手にあと一歩のところまで迫り、ベスト8に進出しました。

東邦高校ソフトテニス部は、結果だけ追い求めるのではなく、全てに感謝できる人間になること。そして、常に「凡事徹底」を意識して日々部活動に励んでいます。秋に行われる新人戦では県大会優勝を達成し、悲願である全国大会出場を勝ち取りたいです。

水泳部

GW合宿

水泳部顧問 牧野 雅司

水泳部は、毎年ゴールデンウィークは校内で合宿を行っています。選手たちは、午前・午後一回ずつの練習に、一生懸命取り組んでいました。初夏のさわやかな日を、選手たちと一緒に過ごすことは、なかなか楽しいことでもあります。

この4日間、選手たちは共同生活を送るなかで、お互いの良いところも悪いところも見つめることとなります。そうしたなかで、自分たちのなりたいチーム像を見つめなおし、ミーティングを開き、話し合い、修正していきます。皆さんに応援していただけるチームになれるよう、頑張ってもらいたいと思います。

水泳は個人競技ですが、東邦水泳部はみんなと一緒に練習し、みんなで速くなることを目指しています。選手たちが四苦八苦しながらチームを作り上げていく過程を見守っていくことは、楽しくも素直な経験です。さあ、今年は何のようなドラマを見せてくれるのか。楽しみにしています。

クラブ活動 大学

硬式野球部

平成24年度 愛知大学野球 春季リーグ戦 ご声援ありがとうございました。

硬式野球部部長 深谷 和広

平成24年度愛知大学野球 春季リーグ戦(3部)が、4月7日から5月28日の期間にわたって開催され、激闘を繰り広げて無事終了することができました。

3部リーグ同朋大、名古屋大、名古屋産業大、名古屋学院大、名古屋経済大の各大学との1カ月にわたる熱戦の結果、累計成績5勝7負1分勝ち点2となり、3部リーグ第4位となりました。関係者の皆さんからの熱烈なご声援ありがとうございました。

愛知大学野球リーグ戦は2003年以来これまで5部制で行われてきましたが、2012年秋から3部制で実施されることになりました。1部はそのままに2部・3部をまとめて新2部、4部・5部をまとめて新3部となります。わが野球部は新2部に所属し、秋季リーグ戦に臨むこととなりました。

今回の結果を真剣に受け止め、チーム一丸となって日々の練習に励み、秋季リーグ戦(新2部)に万全の態勢で臨みます。引き続き盛大なるご声援のほどよろしくをお願いします。

男子サッカー部

1部昇格を目指して!

人間学部人間健康学科1年 砂川 健矢



私たち愛知東邦大学サッカー部は、今年行われた第30回愛知学生サッカー選手権大会に

おいて、チーム創立初のベスト4に入りました。

東海学生サッカーリーグにおいては、現在2部に属しています。昨年度前期では、1部との入替戦に臨める3位に位置づけていましたが、後期で失速し、最終的には7位という結果に終わりました。

既に始まっている今年の戦いでは、前期第4節終了時点で4位です。今年度のこれまでの戦い、そして昨年の戦いからはたくさんの課題や通用する部分が見つかっています。日々の練習では、その1つ1つを確認しながら、一生懸命頑張っています。

新チームとなり、部員数も約60人に増えた今年はレギュラー争いも激しいです。そのなかで私たちは切磋琢磨しながら、チーム一丸で今年目標1部リーグ昇格を目指します。これからも愛知東邦大学サッカー部にご支援ご指導をよろしくをお願いします。

女子サッカー部

感謝の気持ちを忘れずサッカーに取り組む

人間学部人間健康学科4年 木村 麻希

愛知東邦大学女子サッカー部は2007年に創部しました。

このチームはアットホームで仲が良く、やるときはやるチームです。昨年度インカレ出場は、あと1歩のところまで逃してしまいましたが、県リーグ1部優勝を果たしました。



今年こそインカレ出場を果たせるように、チーム一丸となり日々

トレーニングをしています。

また、スポーツイベントやスポーツ教室、地域活動にも積極的に取り組むことで、競技以外の面でも成長できるように努力しています。

いつも応援してくださる方々のおかげでサッカーができることに感謝しています。引き続き応援よろしくをお願いします。

サッカーに興味がある方は、誰でも参加できるので気軽に参加してください。

愛知東邦大学吹奏楽団

創立6年目を向かえて

人間学部人間健康学科2年 濱野 梓

私たち愛知東邦大学吹奏楽団は、創立6年目になりました。今年は新入生部員8人が加わり、現在は1年生8人、2年生6人、4年生1人の計15人で日々活動



吹奏楽団路上ライブ

しています。楽器の種類やパートも増え、個性豊かな仲間と音楽ができることがとても楽し

いです。その半面、今まで以上に耳を使い、周りの音を聴いて音程や、タイミング・音の吹き方などを合わせていかなければいけません。

1年間部活動を経験して、計画や準備がとても大切だと感じました。高校のときは顧問の先生方がやっていた運営面を、今度は自分たちでやらなければいけないこと、練習面でも練習に入る前の準備で何の練習をするか、そのために必要なことなどをしっかり考えて活動していきたいです。

今年の5月から外部指導員として長尾洪基先生を迎え、練習に励んでいます。自分たちの音楽を聴いた人が何かを感じてもらえる演奏・演技の技術的な向上や、社会に出たときに通用する人間的な成長をしていきたいです。また、団長として愛知東邦大学吹奏楽団を軌道にのせ、発展させていきたいです。学内外の演奏活動も頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。

ホームページでは日々の活動や本番などの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください！

愛知東邦大学吹奏楽団

Green P'sホームページ

<http://green-ps-toho.jimdo.com>



フットサル部

オープンリーグ優勝をめざして

フットサル部顧問 松井 慶太



2012年度は愛知東邦大学フットサル部創部6年目に突入します。サークルから始まった活動もこの6年の間にクラブへの昇格、愛知県フットサルリーグへの加盟など着実に階段をのぼってきました。

しかし、2011年度は年間未勝利というふがない成績でシーズンを終えました。悔しいシーズンにはなりましたが、学生たちの成長は例年以上に感じる1年でした。部長の赤堀くん(人間学部子ども発達学科)を中心に2年生がチーム運営を行った1年間となり、例年3年生で行う連盟関係の運営を2年生で経験したことは今後につながると感じています。

そんな中で迎えた今シーズン初戦は2-0で勝利し、学生たちも嬉しそうに報告してくれました。今年度も

学生が主体的に努力していくチームづくりをします。みなさまのご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

女子バスケットボール部

夏に向けて…

人間学部人間健康学科3年 向所 瑞枝



一人一人がチームの戦力です

私たち愛知東邦大学女子バスケットボール部は、先生方、職員の方々、先輩方など、たくさんの

方々のご指導ご支援をたまわりながら、「楽しくかつ真剣に」をモットーに日々の練習に取り組んでいます。昨年の平成23年度夏季リーグ(三部)では、惜しくも決勝トーナメント出場を逃してしまいましたが、部員全員が一丸となってプレイすることができました。会場に来てくださった方々にも盛大な応援をしていただきました。本当にありがとうございます。

現在、部員は少ないですが、新たな目標に向かって努力し、時には、部員同士でぶつかり合うこともありますが、協力し合っていこうと思っています。そして、今年の夏、全員で「楽しかった!!最高の試合ができた!!」と笑顔で言えるようにしたいと思っています。これからも女子バスケットボールをよろしくお願いします。

Free Style

新たな挑戦

フリースタイルサークル顧問 二宮 加代子

部員一人ひとりの個性と力を最大限に活かし、それらを調和させ、世界に一つしかないダンスを創り上げられるように、日々練習に励んでいます。

先輩方が築きあげてくれた熱いステージを胸に、新



今年もチームでがんばります

入部員とともに頑張っていますので、今後ともフリースタイルをよろしくお願いいたします!!!!

1. 総括

2011年度は新年度直前の3月に東日本大震災が発生し、未曾有の事態の中でスタートした。大震災は日本経済の悪化を招き、福島原発事故により計画停電や食への強い不安を巻き起こすなど、日常生活も深刻な影響を被った。教育機関として被災地支援に微力でも役立ちたいと、被災生徒を対象とした特別入試や学費の免除、生活費の一部援助、募金活動など経済支援の措置をとった。この体験を教育研究活動にいかすべく、被災地でのボランティア活動への参加や大学の地域創造研究所の主催による震災に関する研究会の開催など、学園を挙げて取り組んだ。

学長と校長がいずれも交代した新体制による教学運営では、特に高大連携の取り組みが充実した。双方の教職員間による交流も深まり、2010年度以上に学園の一体感が増した。諸制度の再構築、専門機関を設けて理事会のマネジメント強化を図るなど、基本的なガバナンスのあり方を見直した。

学生・生徒の確保では、大学において2010年度から始めた「育成型AO入試」や東邦高校からの入学者増により、4年ぶりに入学定員を満たしてのスタートとなった。文部科学省の重点策見直しによる経常費補助金等の減額もあり、全体としては収入増につながらなかった。高校では公立高校の授業料無償化の2年目で、公私格差は一層拡大した感が強まり、生徒募集では苦戦を強いられた。

2. 主要事業の実施状況

1. 創立100周年(2023年)に向けての取り組み

(1) 中期事業計画の見直しと教学経営事業の推進

2023年に創立100周年を迎えるため、2012年度から向こう15年間の学園方針「創立100周年事業将来構想」の策定に取り組んだ。5年ごとの中期計画に分け、第1期(2012～2016年度)が最重要と位置づけた。この第1期中期事業計画では「法人・大学・高校の一体感ある運営と組織」を基本目標に置いて、高大連携を通じて学習意欲の向上や募集上の特色を打ち出し、学園全体が一体感を持って安全・安心な教育環境を整備できる計画を立案した。

(2) 第3次中期財政計画の策定

「第1期中期事業計画」と時期を符合させ、2012年度から2016年度までの「第3次中期財政計画」を策定した。この計画は、何より教育を受ける学生・生徒の視点に立ったものとして設計し、単年度ごとに帰属収支の均衡を図りつつ、5年間全体の中で次への5ヵ年に向けた基盤を整えられよう、最終目標を定めた。

2. 教学・経営業務執行体制の確立

(1) 理事会の経営管理体制の充実

業務を着実に執行するため、理事会のガバナンスを強化し、担当理事の責任で学園事業を推進する各専門委員会を整備した。2011年4月25日には、理事長より「東日本大震災に対する学園の取り組み」の提案があり、特に学園としての防災対策と地域との連携について各専門委員会において取り組んだ。

(2) 学園の自己点検評価の実行

学校教育法で義務付けられている大学の自己点検・評価、高校の学校評価について、大学では既に外部評価機関の認証を得ており、高校も初めて実施した。ただ、理事会(法人部門)の管理運営に関する評価指標を作成するまでには至らなかった。法人経営から大学・高校での教育研究活動に至る教学経営全般については、設置校が自主的に展開しつつ、組織の永続性を担保して、その活動のあり方がより理想の形に近づくよう点検評価を有効に機能させる。

(3) 学園としての一体感を育む高大連携

2011年度は、高大連携授業を開催するとともに、新たに「高大教職員合同研修会」を開いた。高校と大学の連

携教育について、専門家を招いて講演会を実施し意見を交換した。「高大連携彫刻展」として、大学のキャンパスに高校美術科生徒の彫刻作品を展示し、互いの教育の場となった。2012年度は、更に一体感を特色とした教育づくりのための教育プログラムに取り組んでいく。

3. 理事会が主導する具体的な経営教学政策

(1) 大学と高校が連携した学生・生徒募集

大学・高校の募集強化のため、理事会専門委員会である「学生募集推進委員会」を中心に募集計画を立案し、東邦高校から70人の入学を目標としたが、2012年度入学予定者は35人となった。次年度は、全学的な取組みとして展開する予定である。

(2) 学生・生徒の就職支援

大学の就業力の育成と高校のキャリア教育が、建学の精神「真に信頼して事を任せられる人格の育成」を今日的に活かし、教学活動の大きな柱の一つであるとして、教育プログラムや日常的な個別指導の充実を図った。なお、卒業生に対する進学・就職率の結果は大学全体で全体平均81.7%、高校での進路決定率は94.2%であった。

(3) 大学キャンパスの整備構想

大学校舎は耐震診断結果を踏まえて、激震に見舞われても、学生の生命を守ることが出来る耐震化を図ることとし、計画立案に着手した。また、大震災によって一挙に必要な現実化した節電、省エネに対応すると共に、避難所としても役割を果たせるよう、耐震に止まらないスマート・キャンパスづくりを目指して、計画作りを進めた。さらに、大学と高校が一体となったイメージのもと、創立100周年に向けて、3期に分けた大学キャンパス整備計画も打ち出した。

(4) 外部組織との協働体制の確立

フレンズTOHOや同窓会との連携を深めるため、各団体に対してアンケート調査を行った。2011年度は集計・分析までの作業に留まったが、2012年度は取り纏めた結果を活かして、外部組織との強固な協力関係を構築し、教育研究活動の充実をはかる。

(5) 外部への情報公開

学校教育法施行規則等の改正に伴い、公的な教育機関として社会に対する説明責任と教育の質向上の観点から、本学園における経営や教育に関する詳細な情報をWebページや学園広報誌など様々な媒体を活用して公表した。

(6) 事務業務システムの改善

管理運営体制を強化して、人事配置や意思決定組織の見直し、業務手順など学園事務局全体の運用のあり方や執行制度の改善に積極的に取り組んだ。

(7) 情報システムの運営整備

大学・高校部門における情報システムの管理・運営業務を、学園として一元的に管理するよう大学情報システムセンターの委託業務を一本化し、ここを拠点に学園内での体制づくりを行った。今後、学園レベルの具体的な課題に対する検討組織の設置や運用規則の制定など環境整備を進める。

財務情報の開示

学校法人東邦学園の財務に関する下記の情報をご請求に応じて開示します。開示の対象者は学園の教職員、在学生又はその保護者・保証人、卒業生、債権者、入学希望者又はその保護者(保証人)です。

- ・ 計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表)
- ・ 予算書(資金収支予算書、消費収支予算書)
- ・ 事業計画書および事業報告書
- ・ 財産目録
- ・ 監査報告書

2011(平成23)年度 東邦学園 財務の概要

収入面では、学園全体の学生生徒数が2,769人で、前年度比37人の減となった。しかし、大学の入学者増により、学生生徒等納付金は前年度を24万円上回った。補助金は、国庫補助金の配分が変更され、競争的資金の減額などで1,978万円減額、1億5,712万円となった。地方公共団体補助金は、1,941万円減って6億7,084万円、補助金全体では3,822万円減少した。寄付金は、受配者指定の2009～2011年度分寄付金が1,400万円入金され、前年度を1,597万円上回った。

この結果、帰属収入合計は8,465万円下回る29億4,766万円となった。

一方、支出は、人件費が8,066万円減少して18億9,951万円、教育研究経費が1,062万円増加の7億5,486万円となった。管理経費は1億6,955万円と昨年同様であった。

消費支出の合計は前年度より7,477万円減少し、28億4,947万円となった。また、基本金組入額は、高校のキャリアセンター設置工事や日進グラウンドのサッカー場照明増設、機器備品、図書等の支出額と借入金返済により、第1号基本金への組入額が1億円となった。

2011年度帰属収支差額は9,818万円の黒字となったが、前年度より988万円下回った。また消費収支差額は、前年度より2,893万円下回り、181万円の支出超過となった。

収入および支出の大科目の割合は、右図のように学生生徒納付金収入が66.0%、補助金収入28.3%と収入全体の94.3%を占めている。支出は人件費が全体の66.7%を占めているが、教育経費が26.5%であり、教育研究活動に必要な支出を行っている。管理経費は前年度より0.2%上回り6.0%となった。

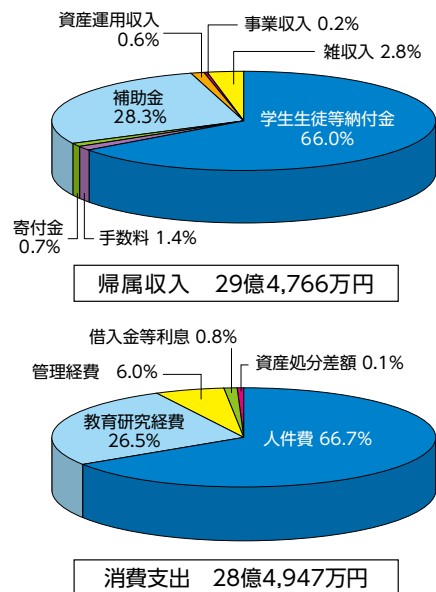
2011年度の収支状況を資金収支でみると、収入額は、2012年度新入生の入学時納付金等の前受金等を含んで33億253万円、前年度より繰越しされた19億4,793万円を加えると収入合計は、52億5,046万円となった。

一方、支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、借入金返済、施設・設備関係支出等31億5,704万円であり、差し引

き20億9,342万円が次年度への繰越支払資金となった。前年度末より1億4,549万円増加した。

貸借対照表によると財政状態は、2011年度末現在の資産の総額は、104億3,024万円で、その内訳は有形固定資産64億3,678万円、その他の固定資産16億287万円および流動資産23億9,058万円となった。

他方、負債の総額は、借入金、退職給与引当金、前受金など合計して33億396万円で、基本金は94億9,848万円となり、そのうち校地・校舎・機器備品・図書など教育・研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金が90億9,358万円となった。翌年度繰越消費支出超過額は、181万円の消費支出超過額によって、2011年度末で23億7,220万円に減少した。



2011(平成23)年度 資金収支計算書 (単位：千円)

科 目	22年決算	23年決算	差 異	
収入の部	学生生徒納付金収入	1,946,630	1,946,878	248
	手数料収入	40,019	40,959	940
	寄付金収入	4,813	20,789	15,976
	補助金収入	872,430	834,210	△ 38,220
	資産運用収入	16,349	16,435	86
	事業収入	14,648	5,491	△ 9,157
	雑収入	135,780	81,311	△ 54,469
	借入金収入	369,000	-	6,417
	前受金収入	418,904	375,417	66,309
	その他の収入	468,651	485,213	△ 972,819
	資金収入調整勘定	△ 499,739	△ 504,168	2,447,673
	前年度繰越支払資金	1,795,878	1,947,934	3,454,590
	合 計	5,583,363	5,250,468	△ 332,895
支出の部	人件費支出	1,984,414	1,903,981	△ 80,433
	教育研究経費支出	425,624	448,667	23,043
	管理経費支出	163,449	164,159	710
	借入金等利息支出	26,622	21,457	△ 5,165
	借入金返済支出	858,786	429,945	△ 428,841
	施設関係支出	11,908	4,046	△ 7,862
	設備関係支出	22,190	27,372	5,182
	資産運用支出	137,598	153,324	15,726
	その他の支出	31,429	30,608	△ 821
	資金支出調整勘定	△ 26,591	△ 26,515	76
	次年度繰越支払資金	1,947,934	2,093,423	145,489
	合 計	5,583,363	5,250,468	△ 332,895

2011(平成23)年度 消費収支計算書 (単位：千円)

科 目	22年決算	23年決算	差 異	
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,946,630	1,946,878	248
	手数料	40,019	40,959	940
	寄付金	6,052	21,979	15,927
	補助金	872,431	834,210	△ 38,221
	資産運用	16,349	16,435	86
	事業収入	14,648	5,491	△ 9,157
	雑収入	136,185	81,711	△ 54,474
	帰属収入合計	3,032,314	2,947,661	△ 84,653
	基本金組入額	△ 80,949	△ 100,004	△ 19,055
	消費収入合計	2,951,365	2,847,657	△ 103,708
消費支出の部	人件費	1,980,178	1,899,516	△ 80,662
	教育研究経費	744,244	754,864	10,620
	管理経費	169,549	169,553	4
	借入金等利息	26,622	21,457	△ 5,165
	資産処分差額	3,650	3,835	185
	徴収不能額	-	246	246
	消費支出合計	2,924,243	2,849,472	△ 74,771
	消費収支差額	27,122	△ 1,815	△ 28,937
合 計	2,951,365	2,847,657	△ 103,708	
帰属収支差額	108,071	98,189	△ 9,882	

2012(平成24)年度 東邦学園 事業計画

1. 創立100周年(2023年)に向けた取り組み

(1) 中期事業計画の全学的取り組み

2012年度は全3期(15年間)にわたる「創立100周年事業計画」の初年度にあたり、趣旨と計画を周知し、連動する財政計画に対する理解と協力を求める。第1期の中期事業計画I(2012-2016年度)と第3次中期財政計画(同)は、それぞれの設定目標に基づいて着実に具体化する。

計画作りから実施まで、常に建学の精神「真に信頼して事を任せようの人格の育成」に合うことを意識し、100年経ても不朽の精神であることを学園の内外にアピールする。

(2) 寄付金募集の活性化

私学への補助金は年々厳しさが増している。周年事業に伴う一過性の寄付だけでなく、息長く本学への支援を続けていただける幅広い体制が必要である。学校法人への個人寄付は、2011年度税制改正で、寄付額の約40%が税額控除(確定申告による還付)される制度となった。還付のメリットを生かして寄付者が広がるよう、税額控除を可能にする法定要件(年額3,000円以上の寄付者が年平均100人以上)を満たす仕組みを整える。

(3) 学園OBや後援者との連携強化

高校・大学の同窓会、PTA・後援会、フレンズTOHOとの関係をより深めるために専門組織を設置するとともに各機関との連携政策を具体化する。

2. 理事会が主導する具体的な政策

(1) 安全で安心できる教育環境の整備

耐震化が最優先課題の大学校舎は、キャンパス整備第1期となる耐震化工事を実施し、2014年度に予定する第2期・建替えは計画を作成する。大学と高校のキャンパスが隣り合う利点から、緊急時は相互の避難用、日常的には一体感のある学園イメージを持てる整備を進める。緊急時用の防災用品や食糧の備蓄を進め、学生・生徒用の防災キットを備える。

(2) 「高大連携」を特色とする大学と高校の教育プログラムの検討

学生・生徒の学びと募集状況などを踏まえ、大学の学部・学科と高校の学科・コースについて、高大連携の観点から再編を具体化する。

東邦高校への志願者数は今春反転したものの、往時のような勢いはない。日常の学習、卒業後の進路を考えた場合、より細やかな指導が求められている。大学との「つながり」を魅力と受け止める志願者も一定数存在する。愛知東邦大学など「高大7年」を意識したプログラムを示して、志願者、在学生が新たな意欲をかき立てられる環境を整える。

定員確保に窮する愛知東邦大学にとっても、東邦高校などからのまとまった入学者は不可欠である。連携・提携を通じて「7年一貫」或いはそれを意識した学びのメニューから進学意識を培うことができれば、進学・進路目標をしつ

かり持った志願者を、より安定的に迎えられる。

(3) 広報活動の強化

学園・大学・高校の知名度が上がる事業を展開する。学園に関心を持つように教育活動を中心に詳細な情報をWebページや学園広報誌など様々な媒体を活用して、学内外のステークホルダーにわかりやすく解説し、理解と協力を求める。

(4) 社会(地域)連携の推進

社会人に目を向けて、現行の教育資源を活かしながら企業や自治体との連携による地域活性化に貢献する生涯教育プログラムを開発する。

(5) 教職員の教育力や力量の向上

教育力並びに経営力向上のために外部の協力も得ながら、高大の連携事業の一環としての学園レベルでの教職員合同研修会や設置校独自の研修プログラムを充実させ、教職員の力量向上を進める。

(6) 事務業務システムの改善

学園の事務全体の運用や執行制度、リスク管理、業務フローなど全般を見直し、情報システムの活用と合わせて改善し、業務内容の質的向上を図る。特に、財務統制の観点から、新規導入した会計ソフトを活用して経理機能を安定的に運用する。情報システムの運営整備については、大学・高校における情報システムの管理・運営業務を学園として一元的に管理するよう運営環境の整備を図る。

3. 教学・経營業務執行体制の確立

(1) 理事会の経営管理体制の充実

諸事業の立案・遂行に当っては、教学組織や委員会等が役割を十分果たすよう、理事会が責任を持って組織運営に努める。中期事業計画を実質化するために、学園事業を推進する各専門委員会を整理する。教学組織と連携のとれた機動的な体制と運営を目指し、各業務を着実に執行する。

他方で、幾層もの議論を経る積上げ型・諮問型だけでは、斬新な提案が埋没し熱気も失せかねない。関連で縦横に交わされる話し合い、期限を区切った意思決定、構成員が残らず取り組もうとする意識の醸成が必要である。批判・問題指摘型から脱却し、100周年に向けて教職員から創造的、建設的な提案と姿勢が引き出せるよう、合意形成と意思決定がより円滑に進むことを心がける。

(2) 学園を取り巻く環境分析と自己評価

学園内外の環境分析を行い、学園としての入口(学生・生徒募集)と出口(進路保証)対策につなげる。また、学園の自己点検評価を推進して、学校教育法で義務付けられている大学の自己点検・評価、高校の学校評価に関して、総合的な評価制度を具体化するとともに、法人の管理運営から大学・高校での教育研究活動に至るまで、幅広く自主的な点検評価活動を展開し、組織機能全体の改善につなげる。

平成24年度 資金収支予算書(概要)

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
	23年度補正	24年度予算	補正との差額		23年度補正	24年度予算	補正との差額
学生生徒等納付金収入	1,952,830	1,934,210	△ 18,620	人件費支出	1,923,609	1,888,070	△ 35,539
手数料収入	40,390	44,757	4,367	教育研究経費支出	481,209	472,269	△ 8,940
寄付金収入	11,200	17,300	6,100	管理経費支出	177,404	166,277	△ 11,127
補助金収入	858,714	1,300,030	441,316	借入金等利息支出	22,470	20,923	△ 1,547
資産運用収入	16,090	16,079	△ 11	借入金等返済支出	429,952	307,595	△ 122,357
事業収入	12,810	12,272	△ 538	施設関係支出	4,380	1,223,250	1,218,870
雑収入	79,575	48,232	△ 31,343	設備関係支出	32,130	43,300	11,170
前受金収入	341,736	365,194	23,458	資産運用支出	154,835	158,997	4,162
その他の収入	475,888	290,535	△ 185,353	その他の支出	26,163	29,590	3,427
資金収支調整勘定	△ 502,749	△ 930,198	△ 427,449	予備費	10,000	30,000	20,000
前年度繰越支払資金	1,947,934	2,002,256	54,322	資金支出調整勘定	△ 29,990	△ 26,510	3,480
合 計	5,234,418	5,100,667	△ 133,751	次年度繰越支払資金	2,002,256	786,906	△ 1,215,350
				合 計	5,234,418	5,100,667	△ 133,751

収入の部				支出の部			
科目	23年度補正	24年度予算	補正との差額	科目	23年度補正	24年度予算	補正との差額
学生生徒等納付金	1,952,830	1,934,210	△ 18,620	人件費	1,913,389	1,896,385	△ 17,004
手数料	40,390	44,757	4,367	教育研究経費	788,859	796,749	7,890
寄付金	12,220	18,248	6,028	管理経費	182,844	172,669	△ 10,175
補助金	858,714	1,300,030	441,316	借入金等利息	22,470	20,923	△ 1,547
資産運用収入	16,090	16,079	△ 11	資産処分差額	3,890	1,300	△ 2,590
事業収入	12,810	12,272	△ 538	徴収不能額	250	0	△ 250
雑収入	79,575	48,232	△ 31,343	予備費	10,000	30,000	20,000
帰属収入合計	2,972,629	3,373,828	401,199	消費支出合計	2,921,702	2,918,026	△ 3,676
基本金組入額	△ 103,152	△ 1,267,859	△ 1,164,707	消費収支差額	△ 52,225	△ 812,057	△ 759,832
消費収入合計	2,869,477	2,105,969	△ 763,508	帰属収支差額	50,927	455,802	404,875

学園の人事構成

【2012年7月1日現在】

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆役員・評議員

理事 長：榊 直樹
 理事 事：成田 良一、長沼 均俊
 古市 久子、磯部由美子
 塩澤 敏明、加藤 明彦
 福島 一政、増田 貴治
 監事 事：石川 元廣、鈴木 基仁
 評議員 員：岡部 一明、山極 完治
 堀田 時弘、古市 久子
 磯部由美子、村田 悟
 水谷 光博、森井 勝也
 戸谷 正行、森川 早苗
 塩澤 敏明、鈴木 健治
 中谷 孝志、中西 勇成
 大矢 正成、川竹 敬三
 川村 秀男、柴田長兵衛
 遠山 真人、下出 啓介
 嶺木 昌行

◆法人事務局

法人事務局長：増田 貴治
 法人事務局次長：堀田 時弘
 法人事務局課長補佐：池田 暁生
 以下大学同役職兼務
 総務・経理課長：二宮加代子
 企画課長：西 弘美
 広報課長代理：村上 道治
 総務課長補佐：貫名 正樹
 総務課長補佐：藤川 久孝
 広報課長補佐：奥田 緑

◆大学

学 長：成田 良一
 経営学部長：岡部 一明
 学長補佐・地域ビジネス学科長：浅生 卯一
 人間学部長：古市 久子
 人間健康学科長：澤田 節子
 子ども発達学科長：矢藤誠慈郎
 図書館長：浅生 卯一
 情報システムセンター長：高木 靖彦
 学修支援センター長：中山 孝男
 学修支援副センター長：矢内 淑子
 地域創造研究所長：御園慎一郎
 入試委員長：杉谷 正次
 教務委員長：田村 豊
 就職委員長：深谷 和広
 学生委員長：宗貞 秀紀
 図書館委員長：浅生 卯一
 情報システム委員長：高木 靖彦
 地域国際交流委員長：小野 隆生
 総務委員長：山極 完治
◆大学事務局
 学長補佐・事務長：増田 貴治
 事務次長：堀田 時弘
 〃 齋藤 周一
 教務課長：藤井 玲子
 学生課長：柴田千登勢
 就職課長：長島 賢
 学術情報課長：黒柳 好子
 教務課長補佐：新村 健
 学生課長補佐：阪口 将史
 学術情報課長補佐：山田 智代

◆高等学校

校 長：長沼 均俊
 教 頭：佐々木泰裕
 〃 藤本 紀子
 校務部長：寺島多岐夫
 教務部長：岡本 洋美
 生活指導部長：村田 悟
 事務部長：袴田 克彦
 渉外企画室長：小嶋 裕人
 進路指導主事：森田 美樹
 国際交流室長：伊藤 保憲
 保健指導主事：渡邊 素幸
 メディアセンター長：森井 勝也
 生徒会正顧問：水谷 光博
 学年主任第1学年：濱砂 孝
 学年主任第2学年：高倉 清文
 学年主任第3学年：中林 幹雄
 教科主任 国語科：松永 早苗
 〃 社会科：志水 和史
 〃 数学科：宮田 賢二
 〃 理科：古谷 嘉
 〃 保健体育科：桜井 秀樹
 〃 芸術科：岡本 増吉
 〃 英語科：松原 聡子
 〃 家庭科：田中 瑞穂
 〃 商業科：大上 雄示

パートナーシップ・インフォメーション

**「フレンズ・TOHO」本年度も
多彩な催し 会員以外の参加も歓迎**

フレンズ・TOHOでは様々な催しを行っています。
興味のある方はフレンズ・TOHOまでご連絡ください。

TEL : 052-782-1241
フレンズ・TOHO事務局
Mail : friends@aichi-toho.ac.jp

◆その0.

すでに終わった企画です。「もう一度春を探しに」白川郷に行ってきました。5月12日。偶然にも寒気団が南下し、風は冷たく“春も春、早春”を味わうこととなりました。残雪が残る馬狩谷。カタクリの群落を目の当たりにし、湖畔に残雪の残る大窪沼にミズバショウが満開の様に、春を感じざるを得ませんでした。季節のタイムスリップとでも表現したらいいのでしょうか。



◆その1. 「身体表現を楽しく豊かに

—運動会に向けて— 7月14日(土)

愛知東邦大学人間学部学部長 古市久子教授の特別講座。「フレンズ・TOHO」からの依頼に応じていただきました。保育士や幼稚園教諭、幼児教育に関心のある方を対象に開催します。

「雀百まで踊り忘れず」、これは幼児教育の大切さを指摘することわざでもあります。身体表現を通し

て幼児教育を学ぶ場を設定しました。7月14日(土)、愛知東邦大学にておこないます。

その2. 「親子理科実験教室」 8月2日(木)

理科嫌いの子供が多い—と言われますが、子どもの自然への興味、関心はとても強いものです。大人が予想さえしなかった疑問をもち、質問をします。「なぜ? どうして?」と。目を輝かせる実験は、子どもだけでなく、大人にも強いインパクトを与えます。親子が楽しめる実験を、東邦高校理科教員と「特進コース」生徒のサポートで学びます。

その3. 「伊吹山エコツアー」 8月4日(土)

伊吹山は薬草の宝庫。北の植物の南限であり、南の植物の北限でもあります。だからこそ豊富な植物相に出会えるわけです。伊吹山の生態=エコロジーを学ぶ機会の再チャレンジ。ガイドとともに歩きます。

その4. 「コーヒーを美味しく楽しむ」 10月1日(月)

コーヒーの日。10月1日はコーヒーの日です。この日、富士コーヒー(株)代表取締役社長 塩澤敏明氏がコーヒーについて語り、実技を学びます。

その5. 「『チンパンジー』はどこまで人に近いか」(仮)

10月14日(日)に開催するミニ講演。愛知県犬山市に京都大学霊長類研究所があります。この研究所から、絶えず霊長類の研究成果が世界に向けて発信されています。霊長類の研究では世界の最先端を行います。この研究所から林美里先生を招き、講演会を開きます。林先生の講演は会員からの推薦もあり、実現することとなりました。

その6. 「シニア向けパソコン教室」

「パソコンはちょっと敷居が高いけれど、メールを送受信することは簡単。携帯からもできる」とおっしゃる方は少なくありません。パソコンの敷居を高く感じなくても済むように、シニアの皆さんを対象に(もちろん若くても歓迎)パソコン教室をおこないます。いまさら人にはなかなか聞けない、そんなシニアに最適講座です。

地域創造研究所 定例研究会を開催

地域創造研究所

2012年度第1回(第37回)定例研究会(「人材育成研究部会」企画)を5月25日(金)に開催しました。

講師に高山自動車短期大学自動車工学科教授の野添雅義氏をお迎えし、テーマ「デュアルシステム(ドイツの職業教育制度)と人材育成の取り組み — 飛騨高山における実践例をもとに —」について講演していただきました。

人材育成について熱心に取り組んでこられたこれまでの経験を実践例として、心に残るエピソードとともに丁寧にお話していただき、参加者からたいへん好評を得ることができました。



「地域減災」研究会を開催します

愛知東邦大学地域創造研究所では、「3.11東日本大震災」被災の支援や次の災害の防災・減災を考えるために、「東日本大震災」研究会を4回開催しました。いざという時に役立つ知識を学び今後活かすために、昨年度に続き研究会を開催します。

今回は名古屋市消防局のご協力を得て、地域防災・減災の視点に立ち、より具体的にこの名東区の地形等をふまえたお話を伺っていきます。ぜひご参加ください。

◆日時：2012年7月21日(土) 13:00～15:00

◆場所：愛知東邦大学 A棟101教室

◆内容：「地域の成り立ちを知り、防災力を高めよう

～南海トラフ巨大地震に備えるために～

名古屋市消防局防災室長 木全 誠一氏

◆参加費：無料



愛知東邦大学同窓会 邦友会 学生・卒業生に支援を

邦友会事務局

邦友会では育英基金を設けており、勉学・課外活動に積極的に参加し、修学の意味がある学生に対して、修学の援助・奨励することを目的とし一人につき5万円支給するものであります。

応募資格は愛知東邦大学の在学学生であり、東邦学園短期大学・愛知東邦大学(東邦学園大学)の卒業生との関係が1親等またはきょうだいであることが条件です。毎年応募者があり選考の上採用しています。詳しくは申請が必要になりますので、邦友会事務局または学務部にお問い合わせください。

短大・大学の卒業生への支援は、同期会開催時の案内状発送などの代行サービスをしていますので、ゼミ会やOB会の幹事になったらご相談ください。

東邦高校同窓会 東邦会 現役東邦生と同窓生の交流がはかれた記念講演

東邦会 事務局長 伊藤 保憲

去る5月26日(土)、名古屋ガーデンパレスを会場に同窓会東邦会の代議員会が行われました。今年度の事業計画や予算の審議を経て、承認をいただくことができました。

その後の記念講演には「東邦ボランティア隊」を講師に迎えました。「東邦ボランティア隊」とは、東日本大震災の瓦礫撤去や、炊き出しなどのボランティアに参加した東邦高校の教員と生徒たちです。記念講演にはボランティア隊の中から、本校社会科の中橋先生と、女子生徒5人がボランティア活動の報告と、活動を通して感じたこと、学んだことから、これからの支援の仕方に関する意見や考えを述べてくれました。

会場からは、「震災の被害を目の前にしても何もできなかった。現役の東邦生、いわば身内からボランティア活動に参加してくれたことを本当にうれしく思う。ありがとう。」という感想もいただき、会場いっぱいの拍手で終了しました。

最後に行われた懇親会では、恩師の先生方を囲み、旧交を温めることができました。

TOHO卒業生インタビュー 東邦の輪

現在活躍中の中日ドラゴンズ 岩田慎司投手に聞く

Q 1 野球を始めたのはいつ頃ですか？そのきっかけは？

兄が野球をやっていたので、小学校一年生から野球を始めました。

Q 2 東邦高校野球部にはどのような理由で入部することになりましたか？

甲子園に行きたくて、甲子園に行ける、目指すことができる高校は、東邦高校しかないと思いました。

Q 3 東邦高校に入学した印象は？

生徒数が多い(笑)

Q 4 野球部の印象は？練習はどのようでしたか？

練習量が半端なく、人生で一番厳しい3年間でした。



©中日ドラゴンズ

Q 5 東邦3年間の生活の中で、最も印象深かったことはどのようなことですか？

日々の厳しい練習を乗り越えて、甲子園に出場できたことです。

Q 6 プロの選手になって、驚いたことや不思議に思ったことはありますか？

プロ野球のレベルの高さに驚きました。

Q 7 プロの選手になって、嬉しかったことは何ですか？

小さい頃の夢がプロ野球選手になることだったので、指名されて夢が叶ったことと、一軍での初勝利です。

Q 8 両親に感謝することはどんなことですか？

自分の好きなことを、とことんやらせてくれたことに感謝をしています。

行事予告

愛知東邦大学

経営学部 地域ビジネス学科
人間学部 人間健康学科
子ども発達学科

オープンキャンパス

7/8(日)・7/28(土)・7/29(日)・8/8(水)・
8/26(日)・10/13(土)・11/17(土)【大学祭共催】
受付：9:00~10:00
開始：10:00



東邦学園同窓生入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校卒業生の子、愛知東邦大学在学生又は卒業生の兄弟に対して入試を実施します。特典として愛知東邦大学入学金が半額になります。一般入試に比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。



東邦高等学校

普通科 (文理特進・アクティブ・
チャレンジ・サイエンス)
商業科 (情報・経理・
グラフィックデザイン)
美術科 (日本画・油絵・
彫刻・デザイン専攻)

夏休みから秋にかけて実施される行事を紹介します。

中学生対象の行事

- ★美術科夏期講習会 ※どちらか1日、要申込
7/28(土)・30(月) 9:00~15:00
- ★普通科・商業科夏休み1日体験セミナー ※要申込
8/6(月)・7(火) 午前、午後の2回実施
- ★部活動見学会 ※要申込
8/28(火) 10:00~12:00
- ★学校説明会 ※事前申込不要
10/27(土)、11/17(土)、12/1(土)
いずれも10:00~12:00
- ★美術科説明会 ※事前申込不要
11/10(土) 13:00~
- ★中学生英語スピーチコンテスト ※要申込
11/4(日) 9:00~13:00
- ★グラフィックデザインコース講習会&説明会
11/10(土) 10:00~12:00 ※要申込

中学生も参加できる行事

- ☆文化祭 ※中学生は制服+生徒手帳持参で入場可
9/29(土) 10:00~
- ☆未来の芸術家たち展
(美術科・商業科グラフィックデザインコース
卒業制作展) ※入場無料
11/6(火)~11/11(日) 10:00~ 愛知県美術館にて

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.toho-h.ed.jp/>





3年美術科 加藤 恵美



3年美術科 奥山 真帆



3年美術科 池田 吏紗



3年美術科 青山 絵梨花



3年美術科 笠井 英里奈



2年商業科GD 野倉 滯



3年商業科GD 松田 有里紗



3年美術科 栗野 真歩



3年美術科 矢野 一喜